

1 クラス人数を減らせば教育の成果は出るのか
授業ごとのレッスンプランを書かない限りよい授業はできない

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2) さて、学力は学校の先生方がどのように授業を行うかによってまります。授業を行う時は、1 クラスの人数が少ない方がよい授業ができるのではないかという意見があります。そこで、文部科学省の中央教育審議会初等中等教育分科会が 7 月 12 日に公表した報告書の案では、小学校・中学校の 1 クラスあたりの人数の上限を引き下げ、それに伴って教職員の数を増やすことなどが提言されています。もしこれが実行されると、1980 年に 1 クラス 45 名から 40 名に引き下げられて以来、約 30 年ぶりのことになります。
- (3) ただ、1 クラスの人数が 40 名から 35 名や 30 名になると、果たして学習効果が高まるのかどうかの議論もあります。そこで、今日は、皆さんとはちょっと違う考えかもしれませんが、私の意見を述べさせていただきます。

2. 1 クラス人数を減らせば教育の成果は出るのか 授業ごとのレッスンプランを書かない限りよい授業はできない

- (1) 私は、1 クラスの人数が 40 名が 30 名に、30 名が 20 名になったとしても、先生の教え方が変わらない限り学習効果にそれほど影響はないと考えております。それは、今の小学校・中学校の先生方は非常に忙しくて授業の準備がなかなかできない、具体的に言うとレッスンプラン(教案)すら書かない方が数多くいらっしゃるからです。授業の準備が十分にできない、レッスンプラン(教案)も書かないまま、場当たりの今までの経験だけで教えるのでは、クラス人数を減らしても、教育の成果、学習効果はあまり期待できません。先生としては少し教えやすくなるだけです。
- (2) 私は、教育の成果は「本人の自覚」、つまり児童・生徒がきちんと勉強しようという自覚を持っていることと、「教師の力量」で決まると思います。教師の力量には、生徒本人の自覚を促すことも含まれます。何のために勉強するのか、勉強してどのような人生を送るのかや、勉強の仕方について生徒に正確に伝え自覚を促すことが大事です。
- (3) 加えて、どのような教え方で授業をするのかについて勉強を重ねた上で、授業の教案、つまりレッスンプランを立てることが教育の成果を決定いたします。1 つ 1 つの授業に即したレッスンプランに基づいて授業を組み立てることを「授業の設計」といいます。
- (4) 授業の設計、計画をきちんと立てる、クラスの特徴を踏まえた上でかなり綿密な作戦を立てレ

ッスプランにまとめ上げて1つ1つの授業を行う場合と、計画をよく立てずに去年と同じように今年も教えればよいという安易な考えで授業を行うのでは、当然十分に準備をし、レッスプランを練り上げた先生の方が学習効果が高まります。準備を万全にしないのであれば、1クラスの人数を40名から35名や30名に引き下げたとしても学習の成果は変わりません。たとえ、半分にしても、また、三分の一にしても学習成果は変わりません。

- (5)教職員の数を増やすことになると、その予算は税金から出ます。ですから、1クラスの人数を減らしても準備不足の先生が授業を行えば、学習の成果は変わらず税金の無駄遣いと厳しい批判を浴びても仕方ありません。1クラスの人数の多少についていえば、人数は少ない方がよいかもしれません。しかし、一番大事なことは、きちんと準備をして授業を行うことだと思います。
- (6)では、なぜ先生方は十分な準備ができないのでしょうか。教育委員会や学校、保護者の方に様々な書類を作って提出しなければならなかったり、いろいろな雑務があるからだと言われていきます。それを避けるためには、教育委員会や学校 PTA、地域社会が先生方に余計な書類を提出させないことが大事だと思います。1クラスの人数を減らす、つまり教員を増員する前にまず行うべきはこちらです。
- (7)学校の先生方の中には、事務処理能力が不足する方がたくさんいらっしゃいます。ですから、事務処理の仕方について民間の会社から学び、効率的にできるようにすることを一つのスキル、技量として先生方が身に付けることも大事です。
- (8)OECD(経済協力開発機構)の調査により、日本の小学校・中学校・高等学校の先生方の年間総授業時間数と OECD の平均とを比較しますと、OECD 諸国の中で授業時間数が一番少ないのが日本の先生方です。日本の先生方は、OECD の平均の約3分の2しか授業を持っていません。
- (9)ですから、お金つまり税金をかけずに1クラスの人数を減らしたいのであれば、日本の先生方の1年間の授業時間数を OECD の平均と同じぐらいに増やせばよいのです。そうすれば、1クラスの人数を40名から30名に引き下げても、国の予算、税金を余計に使わずにできます。
- (10)しかし、その一方で、日本の先生方の総労働時間(1年間に働く時間)は OECD の中で一番多いのです。ですから、授業以外の様々な事務の時間を少なくしたり、クラブ活動や授業以外の教育活動は学校ボランティアや社会の参加を得て協力いただいで行うことも一つの方法であると考えます。特に、学校を60歳で定年退職した先生方は民間の中小企業と比べ退職金や年金が驚くほど高く、生活に困る方は皆無です。また、お元気な方が多いようです。交通費も含め無償の教育ボランティアとしてすべての学校でご活躍いただくことを私は強く提案いたします。

3. おわりに

- (1)今日は、文部科学省から1クラスの人数を40名から35名や30名に引き下げたいという報告書が提出されましたので、そのことについて私の意見を述べさせていただきました。
- (2)繰り返しになりますが、日本の先生方の年間授業時間を OECD の平均まで増やしていただき、お金を一銭もかけずに1クラスの人数を少なくすることがよいと私は考えます。先生方が十分な準備をしないで授業を行うことは、1クラスの人数に関係なく学習効果に支障が出ますので、まずは、ぜひ十分な準備をして授業をしていただきたいと思います。

2011年4月27日校正